

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二 選

寂しさと引きかえにして自在さを望み再び我が家たてむ  
宮園 金子フム子

修理終え一年ぶりに帰る家 老いし二人に再出発の日  
安永 川野 光子

森影に吸はるるごとく登りゆく白きゴンドラ我等をのせて (芦北旅行) 安永 山下たか子

ゆったりと枝を交わして夕暮れを合歡の淡紅やさしく彩ふ  
安永 守住 孝子

少しづつ更地に家の立ち始め 倒れたままの家が怪しい  
安永 福田 圭子

ふる里の復興目指す夏野菜トマトなすびが一家総出だ  
古閑 井上 誠二

吾が夫は満面笑顔デイケアの一日の様子話してくれる  
惣領 島田 廣子

雨の中花から花へ飛ぶ蜂に いっしかな傘を差しかけており  
小谷 今吉マキ子

ふと見れば村の寺院の庭先に誘われたのか蓮花咲きたり  
上陳 永田己智子

晴れ渡る首夏の日を浴び揺れ動くメタセコイアの太き緑葉  
広崎 松原まゆみ

月照らす窓辺につどう虫狙う やもりとなりて我も虫みる  
赤井 増岡 伸禧

俳句

河野 全平 選

雲の峰祖霊も共に地鎮祭

木山 山口サツキ

這いのぼるゴーヤの簾涼を呼ぶ

小谷 今吉マキ子

短夜よ俳句に時を忘れけり

赤井 西山恵美子

雷神の息吹に倒れ茄子トマト

上陳 永田己智子

雷雲の静かに迫る威圧感

辻の城 岸良真由美

早苗田や案山子立つ日を胸に抱く

赤井 増岡 伸禧

目に青葉したたる里や益城町

平田 城 陶子

梅雨長し惨事のニュース昼灯し

田原 辻ヶ峰子

二句鑑賞

八月や六日九日十五日

詠み人 不詳

帰る雁みたか日本のうらおもて

吉川 英治

狂句

田上 富岳 選

修理してかり 快気祝いに般若湯

赤井 増岡 酔粹

修理してかり 写してはいよより若く

木山 今吉美美江

修理してかり 震災の傷癒えぬまま

辻の城 岸良真由美

修理してかり わしはいつでも新車はい

古閑 井上 誠二

修理してかり それでも無料だったはい

江津 高田美佐子

予想外 誰が想像出来たろか

広崎 松原まゆみ

予想外 五十路になって子がでけた

小谷 まさのり

予想外 九州豪雨痛いたし

赤井 鈴木 駒

予想外 ウラがあるばなよか話

宮園 井藤 吉郎

予想外 太かダイヤで釣れました

木山 今吉美美江

狂句次号の課題「まてまて」「よじきた」

益城の文化財 町文化財保護委員会



下 陳  
益城の土蜘蛛伝説

今から1307年前の和銅3(710)年に都が奈良に移って、和銅6(713)年に、全国の神話や伝説が集められ、『風土記』がつけられました。その中に書かれている「土蜘蛛伝説」の原文と現代文の一部を紹介します。

【原文】

肥後国 益城郡 朝来名峯 有土蜘蛛打猴頸猴二人 帥徒衆二百八十余人  
拒捍皇命不肯降服 朝廷 勅遣肥君等祖健緒組伐之 於茲 健緒組奉勅悉誅滅之(以下略)

【現代文】

崇神天皇(10代目の天皇・3〜4世紀)の時代のことです。肥後の国の益城郡に朝来名という山の峯に、土蜘蛛という集団がいました。名を「打猴・頸猴」という兄弟がいて280人余りの仲間がいました。土蜘蛛集団は天皇の命令を聞かない集団でした。天皇は肥後を治めて